



写真映像部の職場を見学する石山高の新聞部員
＝福井新聞社(東村淳悟撮影)

紙面作りコツつかめ

滋賀県立石山高の新聞部員がこのほど、学校新聞製作研修のため、福井新聞社を訪れた。編集局内の各部署を見学し写真撮影や紙面レイアウトのポイントの説明を受け、ニュースを伝える技術に理解を深めた。同部顧問の石田雅子教諭の実家が鯖江市にある関係で研修先に選び、部員やOGら計12人が訪れた。

滋賀・石山高員 本社で研修

レンズで撮影を体験。部員たちは普段、運動部の活躍ぶりを学校新聞で伝えており「暗い屋内の会場できれいに写真を撮るには」「撮影するためのベストポジションは」などと積極的に質問していた。論説室ではコラムの書き方を学んだ。「読者が『へー』とか『なるほど』と思ってくれるよう、自らの体験や書籍の内容を盛り込みながら、起承転結を工夫している」との説明に、熱心になぞっていた。

紙面レイアウトを行うメディア整理部では読者の目を引きつける写真の配置、見出しの取り方について説明を受けたほか、実際に記事を読んで見出し付けにも挑戦した。生徒らは紙面作りで体裁がマンネリ化するのが悩みだと言い、余白の取り方などを「取材」していた。

石田教諭は「取材では下調べをしっかりとって、間違わないためにメモを正確に取るのが大切と感じた。見出しの文字数や写真の配置も勉強になった」と話していた。

(宇野和宏)